

(電子メール施行)  
農技第1135号  
令和6年4月23日

関係各位

兵庫県病虫害防除所長

令和6年度病虫害発生予報第1号を発表します。

令和6年度病虫害発生予報第1号

向こう1か月の病虫害発生予想

作物名	病虫害名	発生予想	発生現況
水稲	ヒメトビウンカ	平年並	平年並
麦	<b>赤かび病</b>	<b>やや多</b>	平年並
春キャベツ	黒腐病	平年並	平年並
	<b>菌核病</b>	<b>やや多</b>	平年並
	アブラムシ類	平年並	平年並
たまねぎ	灰色腐敗病	平年並	平年並
	<b>腐敗病</b>	<b>やや多</b>	平年並
	<b>べと病</b>	<b>やや多</b>	平年並
	ボトリチス属菌による葉枯	平年並	平年並
	アザミウマ類 (ネギアザミウマ)	平年並	平年並
野菜等共通	ヨトウガ	平年並	やや少
	<b>コナガ</b>	<b>やや多</b>	平年並
果樹等共通	<b>果樹カメムシ類</b>	<b>やや多</b>	平年並

太文字の病虫害:向こう1か月の間、発生状況に特に注意を要する病虫害を示す。






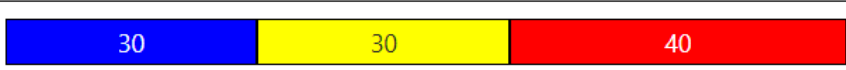
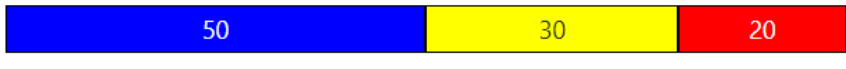

\* 気象の概況

近畿地方 1か月予報  
(4月20日から5月19日までの天候見通し)

令和6年4月18日  
大阪管区气象台 発表

<予想される向こう1か月の天候>

近畿地方 1か月予報 (04/20~05/19)		
2024年04月18日14時30分 大阪管区气象台 発表		
特に注意を要する事項	期間の前半は、気温がかなり高くなる見込みです。	
向こう1か月 04/20~05/19	天候	天気は数日の周期で変わりますが、平年に比べ晴れの日が少ないでしょう。
	気温	平均気温は、高い確率80%です。
	降水量	降水量は、近畿太平洋側で多い確率50%です。
	日照時間	日照時間は、近畿日本海側で平年並または少ない確率ともに40%、近畿太平洋側で少ない確率50%です。
1週目 04/20~04/26	気温	1週目は、高い確率80%です。
2週目 04/27~05/03	気温	2週目は、高い確率70%です。
3~4週目 05/04~05/17	気温	3~4週目は、高い確率60%です。

気温、降水量、日照時間の各階級の確率 (%)			
気温	近畿地方	向こう1か月 04/20~05/19	
		1週目 04/20~04/26	
		2週目 04/27~05/03	
		3~4週目 05/04~05/17	
降水量	近畿太平洋側	向こう1か月 04/20~05/19	
	近畿日本海側	向こう1か月 04/20~05/19	
日照時間	近畿太平洋側	向こう1か月 04/20~05/19	
	近畿日本海側	向こう1か月 04/20~05/19	

■ 低い(少ない) ■ 平年並 ■ 高い(多い)

## \* 発生概況及び防除対策上の留意点

根拠中の記号

- (+) : 発生量を多くする要因
- (-) : 発生量を少なくする要因
- (±) : 発生量が平年並になる要因

## 水稻

### 1 【ヒメトビウンカ】

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 平年並 (±)  
気象予報 気温は高い (+)  
降水量は平年並～多い (-)  
\* 発生現況は麦における発生量

## 麦

### 1 【赤かび病】

- (1) 予想：発生量 **やや多**
- (2) 根拠：発生現況 平年並 (±)  
気象予報 気温は高い (+)  
降水量は平年並～多い (+)
- (3) 防除上の留意点
  - ア 開花期防除が、実施できなかつた場合には必ず薬剤散布を行い、実施できた場合でも天候によっては追加の薬剤散布を行って防除を徹底する。
  - イ 薬剤散布を行う場合は、病虫害・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。また、2回目の防除にあたっては1回目と異なる薬剤を選ぶことが望ましい。

## 春キャベツ

### 1 【黒腐病】

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 平年並 (発生見られず) (-)  
気象予報 気温は高い (+)  
降水量は平年並～多い (+)

### 2 【菌核病】

- (1) 予想：発生量 **やや多**
- (2) 根拠：発生現況 平年並 (±)  
気象予報 気温は高い (+)  
降水量は平年並～多い (+)
- (3) 防除上の留意点
  - ア 発病株は早期発見に努め、菌核が形成される前に抜き取ってほ場外で処分す

る。発病が認められたほ場では薬剤散布を実施する。

イ 薬剤防除は、病虫害・雑草防除指導指針、地域の防除暦等を参考に農薬使用基準を守る。また、感受性低下を避けるために同系統の薬剤の連用は控える。

### 3 【アブラムシ類】

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 平年並（±）  
気象予報 気温は高い（+）  
降水量は平年並～多い（-）

## たまねぎ

### 1 【灰色腐敗病】

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 平年並（発生見られず）（-）  
気象予報 気温は高い（+）  
降水量は平年並～多い（+）

### 2 【腐敗病】

- (1) 予想：発生量 **やや多**
- (2) 根拠：発生現況 平年並（±）  
気象予報 気温は高い（+）  
降水量は平年並～多い（+）

#### (3) 防除上の留意点

ア 発病株は早期発見に努め、腐敗に至る前に抜き取ってほ場外で処分する。

イ 排水不良は本病の発病を助長するので、明きよ等によりほ場排水対策を徹底する。

ウ 過剰な追肥は、過繁茂を招き葉が軟弱になり傷みやすく、本病の発生を助長するので避ける。

エ 病原細菌は植物体上の傷口から侵入するので、ネギアザミウマの防除も励行する。

オ 薬剤防除は、予防的散布を心がける。薬剤の選定にあたっては、病虫害・雑草防除指導指針、地域の防除暦等を参考に農薬使用基準を守る。また、感受性低下を避けるために同系統の薬剤の連用は控える。

### 3 【べと病】

- (1) 予想：発生量 **やや多**
- (2) 根拠：発生現況 平年並（±）  
気象予報 気温は高い（+）  
降水量は平年並～多い（+）

#### (3) 防除上の留意点

ア 越年罹病株は早期発見に努め、抜き取ってほ場外で処分する。発病が認められたほ場では薬剤散布を実施する。

イ ほ場の排水が悪いと発病を助長するので、明きよ等排水対策を十分に行う。

ウ 極早生・早生品種及びねぎほ場で発生したべと病が、周辺の中生・晩生品種の感染源になるため、地域全体で防除対策に取り組む。

エ 薬剤防除は、病害虫・雑草防除指導指針、地域の防除暦等を参考に農薬使用基準を守る。防除時期（特に連続降雨が予想される場合は、予防的散布）、散布方法（十分な付着が得られるような散布量、展着剤の加用など）に留意する。また、感受性低下を避けるために同系統の薬剤の連用は控える。

#### 4 【ボトリチス属菌による葉枯】

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 平年並（発生見られず）（－）  
気象予報 気温は高い（＋）  
降水量は平年並～多い（＋）

#### 5 【アザミウマ類（ネギアザミウマ）】

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 平年並（±）  
気象予報 気温は高い（＋）  
降水量は平年並～多い（－）  
その他 今後、本種は発生盛期をむかえる。極早生・早生品種の一部には多発しているほ場もあり、収穫が進むにつれて、周辺の遅い中生・晩生品種や他の野菜類へ移動して、被害が広がると考えられる。

#### (3) 防除上の留意点

ア 本種は、タマネギえそ条斑病の病原であるアイリス黄斑ウイルス（IYSV）を媒介する。今後、活動が活発になるとIYSVを新たに獲得し媒介するため、適切に防除する。

イ 本種の生態と防除の詳細は病害虫・雑草防除指導指針 参考資料に掲載しているので参照する。

ウ 薬剤防除を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針等を参考にし、農薬使用基準を守る。また、感受性低下を避けるために同系統の薬剤の連用は控える。

### 野菜等共通

#### 1 【ヨトウガ】

- (1) 予想：発生量 平年並
- (2) 根拠：発生現況 やや少（－）  
フェロモントラップへの誘殺数は平年並（±）  
気象予報 気温は高い（＋）

#### 2 【コナガ】

- (1) 予想：発生量 **やや多**
- (2) 根拠：発生現況 平年並（±）  
予察灯、フェロモントラップへの誘殺数はやや多（＋）  
気象予報 気温は高い（＋）

(3) 防除上の留意点

- ア ほ場内や周囲の雑草除去（特にアブラナ科）に努める。
- イ 発生初期の防除に努め、同系統の薬剤の連用は避け、ローテーション散布を行う。
- ウ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。

果樹等共通

1 【果樹カメムシ類】

- (1) 予想：発生量 **やや多**
- (2) 根拠：発生現況 フェロモントラップへの誘殺数は平年並（±）  
気象予報 気温は高い（+）  
その他 チャバネアオカメムシ等果樹を加害するカメムシ類の発生量には隔年性があり、本年は発生が多い年に該当する。今後、気温の上昇とともに活動が活発になると考えられる。
- (3) 防除上の留意点
  - ア 飛来状況は地域や園地で異なるため、定期的に園を見回り、飛来状況の把握に努め、幼果の被害を受けないよう注意が必要である。
  - イ 発生や被害を認めたら速やかに防除する。
  - ウ 薬剤散布を行う場合は、病害虫・雑草防除指導指針等を参考に薬剤を選定し、農薬使用基準を守る。

防除上の留意点に記載している内容のほか兵庫県総合防除計画の内容に留意する。

\*兵庫県総合防除計画は以下のURLに掲載

<https://web.pref.hyogo.lg.jp/nk09/sougouboujyo.html>

\*病害虫・雑草防除指導指針 農薬の検索は以下のURLに掲載

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/noyakusearch/hyogo>

\*病害虫・雑草防除指導指針 参考資料は以下のURLに掲載

<https://www.nouyaku-sys.com/noyaku/user/top/hyogo>

\*この情報は、兵庫県病害虫防除所ホームページに掲載しています。

<https://bojo.hyogo-nourinsuisangc.jp/>

兵庫県病害虫防除所 0790-47-1222

2022年3月1日より「兵庫県病害虫防除所」X(旧Twitter)を開設しています。  
発生予察情報など病害虫に関する情報を提供しますので、是非フォローお願いします。

Xアカウント ([https://twitter.com/hyogo\\_boujoshou](https://twitter.com/hyogo_boujoshou))

